

年	組	名前
---	---	----

干潟の砂で人魚、磨崖仏



真玉海岸サンドアート

第1回真玉海岸サンドアートコンテスト（大分合同新聞後援）が5日、豊後高田市の真玉海岸であった。雨の中、市内外の17チーム約90人が干潟の砂を使った平面、立体作品を制作。熊野磨崖仏などをモデルにした力作が並び、会場は盛り上がった。

第1回真玉海岸サンドアートコンテストが、豊後高田市の真玉海岸でありました。

17チーム「力作できた」

干潟が広がった干潮の午前11時に開始。出場チームのメンバーはスコップなどで砂を運び、雨にぬれながら造形作業に取り掛かった。2時間後には5分四方の区画にアニメキャラクターや、うつぶせに寝そべる人魚などが出現。グラフィックデザイナーらが審査し、最優秀賞などが贈られた。

同市の河内中学校3年生8人をつくる「チームロバ」は昭和の町のイメージキャラクターを制作した。光門舞花さん（16）は「みんなアイディアを出し合って、学校の砂場で練習してきた。かわいい作品ができた」と充実した表情で話していた。

4日に開幕した国東半島芸術祭の応援プロジェクトの一つで、地元有志でつくる「真玉ゆうひの会」が企画した。

真玉海岸サンドアートコンテストで、雨にぬれながら、干潟に人魚の作品を作る参加者。5日、豊後高田市白野

(2014年10月6日朝刊8面)

①サンドアートとは、どのようなものでしょう。

.....

.....

.....

.....

②砂で作るために、どのような点が難しいと思われますか。

.....

.....

.....

.....

③サンドアートにできるデザインを考え、描いてみよう。

.....

.....

.....

.....